

『するが有度山麓9条の会』NEWS



「軍拡」で同じ過ちを繰り返すのですか

すえひろ9条の会
合戸政治

ロシアのウクライナ侵略を契機に、「憲法9条で国を守るのか」「敵基地攻撃能力の保有を」「防衛費GDP2%に引き揚げを」という声が高まってきています。「核兵器の共有」まで言い出している人たちもいます。

しかし、これは「力には力」という考え方で、国を守るどころか逆に戦争に近づく論理ではないかと思えます。この論理でいけば世界中の国が武力を強化しなければならぬし、核兵器を全ての国が所有することになります。こんな世界にしていいはずがありません。

互いに武力を強化すれば、互いに脅威を感じることにになり、ちよつとしたきつかけで暴発しやすい。これは、日本が過去に実際に経験したことではないでしょ

うか。

1936年、日本はロンドン軍縮条約から脱退しました。これによって、日本は制約なく海軍軍備を増強させました。何のため？ 仮想敵国アメリカに備えるためです。戦艦、空母、巡洋艦などの増強と航空兵力の増強を図りました。その挙句が日米開戦です。6隻の正規空母に400機近い当時最有力の戦闘機、爆撃機、攻撃機を搭載し、真珠湾を攻撃しました。まさに敵基地攻撃です。その結果3年8か月後には、日本中が焼け野原になりました。310万人もの日本人が命を落としました(アジアの人たちの犠牲は2,000万人ともいわれます)。国を守るはずの軍拡は、逆に国を滅ぼしました。軍拡は抑止力になりませんでした。

このような大きな誤り、大きな犠牲の上に成立したのが日本国憲法です。2度と戦争はしない、そのための戦力は持たない、と国内外に誓いました。「過ちは二度と繰り返しません」

幸い日本は復興することができました。その復興ぶりは目覚ましいほどでした。私は、日本国憲法9条は、復興にも大きく貢献したと思っています。軍事費より経済に予算を回すことができました。平和の誓いで、過去に迷惑をかけた周辺国・アジア諸国との関係もスムーズになりました。

憲法9条は、これからの日本が戦争しないために、そして国民生活を守るためにもとても大切なものだと思います。

「自分事として」

つくしんぼ保育園保育士
杉山昌世

2022年2月24日からロシアのウクライナへの侵略が始まってから、「これが二十一世紀においていることなのか？」



と目を疑うような光景が連日報道されている。なんの罪もない子どもたちが犠牲になっていく様子が知らされるたび、痛みにも似た哀しみと心の奥底からの憤りを感じる。もしもこれが、私が日々接している保育園の子どもたちだったら…と思うと「いますぐやめろ！」と叫んでしまう。

三歳児のKちゃん、朝登園するもママと離れがたくて抱っこでひつついていた。そのとき先に登園していた四歳のIちゃんが兄のRちゃんと喧嘩をして「わーん！」と座り込んで泣き始めた。するとKちゃんはママの腕からスルスルッと降りるとIちゃんの傍らに座り「だ〜じよ〜ぶ？」と声をかけ、ちよつと上目づかいで咬くように「ケンカはだめでしょ」と言った。するとRくん「だってIちゃんが一緒にやろうって言ったのに嫌だっというから」「でもケンカはだめでしょ」とKちゃん。「じゃあさあ…」と兄妹で交渉が始まり、じきに兄妹は笑って遊び始めた。Kちゃん

んもママとバイバイするとIちゃんの近くでままとを始めた。安心安全の中で日々お互いを大事に思いあっている子どもたちの日常。あたりまえの風景かもしれないが、とても尊い。子どもたちの原風景が爆弾が空から降ってくる日常だったら…考えただけで恐ろしさに震える。ウクライナで起きている出来事を「もしここで起きていたら」と自分事として考え続けたい。ぼくつと他人事に考えていると、憲法9条まで変えられてしまう。何も出来ないかもしれないが、考え続け、感じ続け、行動し続けたい。今すぐこの戦いが終わること、平和な日常が戻ることを心から願ひ祈る。

言い争う人々を見よ 杖を執ったことから 恐怖が生じたのである

『スッタニパータ』(ブッダのことば) 岩波文庫

人と人との争いは自我と自我の衝突によつて起こり、国家間の戦争は集団的自我の衝突によつて起こります。自我(「とにかく私は正しいのだ」という思い)に捕らわれていることを仏教では無明といえます。私がこの無明の闇の中でさまよっていることに気づくことが重要であり、そして様々な仏教の修行の目的はこの気づきを得るためといえます。

無明の闇の中で杖(武器)を振り回すことがいかに危険なことかをブッダの言葉が示していると思います。容易に迷いの自我から解放されることのできない罪悪深重煩惱熾盛(歎異抄)の我々は少しでも軍事力(杖)を縮小していくことを目指していくことが大切であると思ひます。

(西敬寺別符聡)